

「阻止されたらブルドーザー突っ込んで」

石木ダム建設問題をめぐり、反対地権者の土地収用裁決などに関わった県収用委員会の林田惺(せい)委員(80)＝元県議＝が19日、同委員の任期満了を控えた感謝状贈呈式で、反対地権者の抗議活動について「阻止されたらどんどんブルドーザーを突っ込んで」などと中村法道知事らに発言した。県収用委員は真などから独立した行政機関とされており、発言は波紋を呼びそうだ。林田委員の任期は24日まで。

石木ダム抗議活動

式は県庁であり、中村知事や浅野和広土木部長らが出席。林田委員は、中村知事から感謝状を受け取った後、石木ダムの付け替え道路の現場入り口で反対地権者が抗議活動を続けていることについて「阻止されたらどんどんブルドーザーを突っ込んで、業者を入れさせないと」「機動隊を入れるかどちらか」などと話した。中村知事は「事故とか、けがが出るのはよろしくない」と

県収用委員が不適切発言

した上で「(反対地権者に)説明を聞いていただけじゃない。一切、話ができない」と述べた。林田委員は取材に対し「委員として不適切だった。撤回したい」と述べた。県収用委員は、土地収用法に基づき、公共事業の用地取得に向けた損失補償額や用地の明け渡し期限などを判断する。弁護士や不動産鑑定士、元県議や元県職員ら7人で構成し、県議会の同意を得て、知事が任命している。(緒方秀一郎)



揺らぐ県収用委の中立性

緒方秀一郎

(報道部)

「ブルドーザーを突っ込んで」「機動隊を入れるかどちらか」。石木ダム建設に反対する地権者への対応をめぐる県収用委員の不適切発言は19日、県庁であった退任前の感謝状贈呈式で言い放たれた。県議も務めた委員の言動から、県収用委員会の「公正中立」が揺らいでいると確信した。

委員は取材に対し、今月24日までの3年間の任期中、石木ダム反対地権者の農地の明け渡しを求める裁決や、家屋を含む敷地の裁決手続き開始などに関わってきたと認めている。同委員会事務局を務める県用地課は、委員会について「公正、中立」「公共の福祉に関し公正な判断をすることのできる者のうちから、県議会の同意を得て知事が任命する」としている。だが発言は、ダム建設を進めたい県側の立場に極端に偏っている。その後、委員は発言を撤回したが、そもそも任命が妥当だったのかという疑念さえ抱かざるを得ない。当日は委員への辞令交付式もあり、再任された弁護士から「(県に)うまいやり方を見つけていただきたい」「事務局と一丸となってスクラムを組んでやっていく」との発言もあった。公正中立は守られるのか。注視していく必要があると感じた。